

2025 スカイランニング 日本代表参戦記

SKYRUNNING WORLD CHAMPS



JSA

日本スカイランニング協会

写真：2025 ユーススカイランニング世界選手権（イタリア）

【沿革・歴史】日本スカイランニングの主な出来事

(JSA 設立以前)

- 1913 金栗四三が発起人となり静岡県御殿場市にて「富士登山競走」が開始 ※日本で最初の山岳レース、後に駅伝形式へ変更
- 1925 御殿場駅前と富士山頂を往復する「富士登山往復駅伝」が開始 ※現在も「富士登山駅伝競走大会」として継続
- 1948 富士吉田市役所から富士山頂へ駆け登る「富士登山競走」が開始 ※現在も継続
- 1980 国民体育大会で山岳競技（縦走・登攀・踏査の3種目）が開始 ※2007 年を最後に縦走は廃止、登攀（スポーツクライミング）のみに変更
- 1990 上州武尊山を縦走する「山田昇記念杯登山競争大会」が開始 ※現在開催されている「上州武尊スカイビュートレイル」の前身の大会
- 2006 木曽御嶽山で「OSJ おんたけスカイレース」がスカイランナーワールドシリーズ（以下、SWS）として開催
- 2007 木曽御嶽山で「OSJ おんたけスカイレース」が SWS として開催 世界的山岳ランナーのキリアン・ジョルネが参戦し優勝

(JSA 設立以後)

- 2013 日本スカイランニング協会（JSA）が設立 初代会長に松本大が就任
アメリカ・パイクスピークで開催されたワールドシリーズ戦で宮原徹が優勝 ※日本人初の SWS 優勝
- 2014 国際スカイランニング連盟（ISF）へ加盟
フランス・シャモニーで開催されたスカイランニング世界選手権に日本代表が初出場（団体 16 位）
- 2015 香港・サイクンで第 1 回アジア選手権が開催（以降、日本は大陸別選手権への出場を続ける）
全日本スカイランニング選手権大会の開催が開始
スカイランナージャパンシリーズ（SJS）が開始
- 2016 スペイン・ボイで開催された世界選手権に出場（団体 3 位）
イタリア・グランサッソで第 1 回ユース世界選手権が開催（以降、日本はユース世界選手権への出場を続ける）
大阪・あべのハルカスでパーティカルワールドサーキット（VWC）が開催 吉住友里が優勝 ※日本人初の VWC 優勝
- 2017 山形・蔵王温泉でアジア選手権が開催
スペイン・トランスヴルカニアで開催された VK シリーズ戦で吉住友里が優勝 ※日本人初の VK 優勝
- 2018 イギリス・スコットランドで開催された世界選手権に出場（団体 4 位）
- 2019 新潟・粟ヶ岳で SWS が開催
上田瑠偉が SWS で総合優勝 ※日本人初の SWS 年間チャンピオン
- 2020 コロナ禍により公式戦が中止
- 2021 スペイン・ボイで開催された世界選手権に出場（団体 5 位）上田瑠偉が VK と複合で優勝 ※日本人初の世界選手権（山岳）優勝
VK シリーズ戦で吉住友里が総合優勝 ※日本人初の VK 年間チャンピオン
- 2022 スペイン・シエラネバダで第 1 回スカイスノー世界選手権が開催 コロナ禍の影響のため日本代表の出場は断念
全日本スカイスノー選手権大会の開催が開始
スカイスノージャパンシリーズ（SSJS）が開始
全日本ステアクライミング選手権大会の開催が開始
パーティカルジャパンサーキット（現、ステアクライミングジャパンサーキット（SJC））が開始
イタリア・オッソラで開催された世界選手権に出場（団体 3 位）
UAE・ドバイで第 1 回ステアクライミング世界選手権が開催 吉住友里が優勝 ※日本人初の世界選手権（階段）優勝
- 2023 パーティカル（登山競走）の国内サーキットとして V GAMES JAPAN が開始
イタリア・グランパラディソで第 1 回マスターズ世界選手権が開催（以降、日本はマスターズ世界選手権への出場を続ける）
大阪・あべのハルカスでステアクライミング世界選手権が開催 渡辺良治・吉住友里が優勝
- 2024 イタリア・タルヴィジオで開催されたスカイスノー世界選手権に日本代表が初出場（団体 7 位）
スペイン・ソリアで開催された世界選手権に出場（団体 3 位）
- 2025 群馬・嬬恋で第 1 回スカイスノーアジアパシフィック選手権が開催（団体 1 位）
長野・上田で SWS が開催





MASTERS



雪上：スカイスノーアジアパシフィック選手権 (開催地：群馬県嬬恋村)

スカイスノー大陸別選手権が日本で初開催！2025 スカイスノー日本代表は団体金メダル！

2025 SkySnow Asia-Pacific Championships

Tsumagoi, Japan – April 5-6, 2025



2025 SkySnow Asia-Pacific Championships
Tsumagoi, Japan – April 5-6, 2025



2025 スカイスノーアジアパシフィック選手権・日本は団体で金！個人では布施・大掛姉妹が金！

標高の高い雪上を駆ける初のアジアパシフィックスカイスノー選手権が、2025年4月5-6日に群馬県嬬恋村で行われました。国別ランキングでは日本、韓国、モンゴル、オーストラリアが上位を占め、メダル数では開催国の日本が13個、モンゴルが4個、韓国が2個、オーストラリアが1個を獲得しました。男子はモンゴルのルブサンシャラヴ・ナツアグドルジ (Luvsansharav Natsagdorj) がバーティカルとクラシックで金メダルを獲得。女子は日本勢が上位を占め、布施愛里 (Fuse Airi／北海道) がバーティカル、大掛莉奈 (Ogake Rina／愛知) がクラシック、大掛柚奈 (Ogake Yuna／愛知) がコンバインドで金メダルを獲得しました。

夏季五輪への新規競技・新規種目の採用が難しい状況がある中、IOC(国際オリンピック委員会)は冬季五輪を拡大させる方針です。残雪の高所山岳を駆け登るスカイランニング元来のスタイルを受け継ぐ”スカイスノー(スノーラン)”は将来の冬季五輪採用を目指す種目として注目されてきています。

VERTICAL MEN

1. Luvsansharav Natsagdorj (MGL) 28:10
2. Junta Nakajima (JPN) 31:48
3. Tomofumi Miyagawa (JPN) 33:21
4. Hiroo Ishida (JPN) 35:37

VERTICAL WOMEN

1. Airi Fuse (JPN) 37:33
2. Karen Kobayashi (JPN) 38:17
3. Yuna Ogake (JPN) 38:47

CLASSIC MEN

1. Luvsansharav Natsagdorj (MGL) 52:02
2. Junta Nakajima (JPN) 59:16
3. Jun Kaise (JPN) 59:27
4. Hiroo Ishida (JPN) 1:06:09

CLASSIC WOMEN

1. Rina Ogake (JPN) 1:11:12
2. Yuna Ogake (JPN) 1:12:25
3. Riko Obata (JPN) 1:14:24

COMBINED MEN

1. Luvsansharav Natsagdorj (MGL)
2. Junta Nakajima (JPN)
3. Billy Curtis (AUS)
4. Hiroo Ishida (JPN)

COMBINED WOMEN

1. Yuna Ogake (JPN)
2. Seonyeong Kim (KOR)



去年もこのザラメ雪に苦戦しましたが、今年も苦戦しました。また、3月の八海山とは異なり、緩い傾斜の分、しっかり走りこんでいかなければいけないという難しさも感じました。今回は優勝できないと思っていましたが、なんとか優勝することができました。このようなコンディションの中で優勝できたことは自信になりました。日本代表として、次の世界選手権でもよいパフォーマンスが発揮できるように、雪国である北海道のプライドをかけて頑張っていきたいと思います。

布施 愛里 (VERTICAL 優勝)



バーティカルでは良い結果が出せなく悔しかったので、クラシックでは優勝しようと思って最初からとばしました。折り返し地点で後続が近いのが見えて、ずっと気が抜けませんでした。でも、そのおかげで自分の力を出し切ることができました。

大掛 莉奈 (CLASSIC 優勝)



COUNTRY RANKING

- | | |
|--------------|------------------|
| 1. 日本 2286pt | ※出場 4 か国 |
| 2. 韓国 1114pt | 3. モンゴル 140pt |
| | 4. オーストラリア 128pt |

山岳 (40 歳以上) : マスターズスカイランニング世界選手権 (開催地 : ブルガリア)

40 代以上のスカイランナーたちの祭典。2025 マスターズ日本代表は団体銀メダル獲得！



2025 マスターズ世界選手権・日本は団体で銀！個人では7名が入賞！岡田・宮川・宮坂が金！

40代以上のスカイランナーたちの祭典であるマスターズスカイランニング世界選手権が、10月3-5日、ブルガリア・カルロヴォにて開催されました。日本からは19名の選手が参戦。大会初日の大荒れの悪天候により3種目ともにコース変更（PlanB）での開催となりましたが、LESS CLOUD. MORE SKY（雲外蒼天）のスカイランニングのキャッチフレーズの通り、最終日は晴天に恵まれ締めくくられました。23カ国から公式チームが参加した今大会では、75個のメダルと世界タイトルが競われましたが、なんと17カ国がメダルを獲得。これは、スカイランニングの普及により新興国の実力が高まっていることを物語っています。獲得ポイントで競われる団体ではポルトガル・に次いで日本は2位となり、銀メダルを獲得しました。

VERTICAL

WOMEN

045 2.Goda Mutsumi 42:23

MEN

040 1.Miyagawa Tomofumi 34:02

040 5.Takamae Naoyuki 37:20

040 15.Nishiyama Shinichi 45:07

045 10.Hosoki Ikuo 41:15

045 13.Murai Masatoshi 43:12

050 5.Kawasaki Yoshitaka 40:32

050 8.Nakayama Tatsuru 43:38

055 11.Uchida Masanao 49:30

SKYULTRA

WOMEN

050 7.Kurokawa Yoshie 08:55:06

MEN

040 3.Ohata Masataka 06:16:03

040 4.Miyagawa Tomofumi 06:16:48

045 1.Okada Yuya 06:34:48

045 5.Onoda Seiya 07:09:54

050 3.Shimizu Katsutoshi 07:00:01

050 8.Shizuka Kantaro 07:38:08

050 14.Nakayama Tatsuru 08:34:02

SKY

WOMEN

055 1.Miyasaka Yasuko 04:26:04

MEN

040 10.Nishiyama Shinichi 03:45:44

045 5.Hosoki Ikuo 03:25:46

045 9.Murai Masatoshi 03:45:52

050 5.Kawasaki Yoshitaka 03:30:42

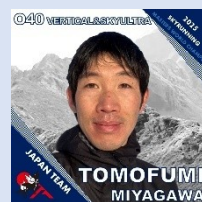
055 7.Yamamoto Ryuji 04:31:04

055 12.Uchida Masanao 05:09:33

バーティカルは、雨で短縮コースとなり、冷たい雨の中でのスタートとなりました。コース序盤のシングルトラックにトップで飛び込みんだものの、4人に抜かれ、その後も数名に追われる展開でしたが、ゴール直前に1人を抜きかえして、総合4位となりました。メダルを逃したと思いましたが、トップ3は何と全員歳上のカテゴリーで、運よくO40で優勝できました。最後までプッシュしてよかったと思います。日本では歳上世代に負けることはほとんどありませんが、負けてショックを受けました。

それと同時に「世界には強いイケおじが沢山いる、まだまだ頑張らなければ」と思いました。

宮川 朋史 (VERTICAL(O40)優勝)



今回は、昨年の結果にとらわれず、自分の走りに集中して臨もうとしました。しかし、天候による直前のコースおよびレギュレーションの変更、そして調整不足の影響もあり、序盤は体調が思うように上らず、焦りを感じる苦しい展開に。支えてくれている人たちの顔を思い浮かべることで、少しずつ気持ちを立て直すことができました。最終的には、幸運にも昨年に続いてカテゴリー優勝という形でゴールすることができました。この結果は、心強いサポート、そして現地や日本から応援してくださった多くの方々のおかげです。チームジャパンとしても団体2位という素晴らしい成績を収め、その一員として走れたことを誇りに思います。今回の経験を通して、新たな学びを数多く得ることができました。この感動を胸に、さらに成長し続けられるよう努力を重ねていきます。

岡田 裕也 (SKYULTRA(O45)優勝)



ブルガリアの空は広くて青かった！そしてブルガリアの人たちは本当に優しくった！予想外の気温の低さ、乾燥した空気などスタートしてからしばらく体調がすぐれなかったのですが、後半から復活し無事にゴールすることができました。言葉は通じなくても笑顔でどうにかなるのは人間だけの特権ですね！どの国の選手もスタッフも優しくてカッコよくて素敵でした。もちろん今回一緒に走ったチーム細木 JAPAN も最高のアスリート集団でした。ありがとうございました。マスターズ世代の皆様、これからもお互い切磋琢磨していきましょう。

宮坂 康子 (SKY(O55)優勝)



| COUNTRY RANKING | | 4. ブラジル 1616pt | 8. スロバキア 572pt |
|-----------------|----------------|-----------------|----------------|
| 1. ポルトガル 2482pt | 5. イギリス 1158pt | 9. 北マケドニア 502pt | |
| 2. 日本 1716pt | 6. ルーマニア 992pt | 10. チリ 454pt | |
| 3. ブルガリア 1660pt | 7. クロアチア 682pt | ※出場 23 개국 | |

山岳（23歳以下）：ユーススカイランニング世界選手権（開催地：イタリア）

毎夏開催される若年スカイランナーたちの交流・育成を目的にした祭典。2025 ユース日本代表は団体4位！

| | | | | |
|--|---|--|--|--|
|  <p>U23 2025 SKYRUNNING YOUTH WORLD CHAMPS JAPAN TEAM KAKERU OKA</p> |  <p>Youth A 2025 SKYRUNNING YOUTH WORLD CHAMPS JAPAN TEAM YUNA OGAKI</p> |  <p>Youth A 2025 SKYRUNNING YOUTH WORLD CHAMPS JAPAN TEAM RINA OGAKI</p> |  <p>Youth B 2025 SKYRUNNING YOUTH WORLD CHAMPS JAPAN TEAM RIKO OBATA</p> |  <p>Youth B 2025 SKYRUNNING YOUTH WORLD CHAMPS JAPAN TEAM YUMI SAITO</p> |
|  <p>Youth A 2025 SKYRUNNING YOUTH WORLD CHAMPS JAPAN TEAM LEONARDO SUZUKI</p> |  <p>Youth C 2025 SKYRUNNING YOUTH WORLD CHAMPS JAPAN TEAM KAREN KOBAYASHI</p> |  <p>Youth C 2025 SKYRUNNING YOUTH WORLD CHAMPS JAPAN TEAM KAZUKI NITTA</p> |  <p>2025 YOUTH SKYRUNNING WORLD CHAMPS JSA 日本スカイランニング協会 AOZORA JAPAN</p> | |
|  <p>U23 2025 SKYRUNNING YOUTH WORLD CHAMPS JAPAN TEAM RYOSHIN HASE</p> |  <p>U23 2025 SKYRUNNING YOUTH WORLD CHAMPS JAPAN TEAM REN FURUTA</p> |  <p>Youth B 2025 SKYRUNNING YOUTH WORLD CHAMPS JAPAN TEAM MISORA YABANA</p> |  <p>Youth B 2025 SKYRUNNING YOUTH WORLD CHAMPS JAPAN TEAM TAISHI YAMAGISHI</p> |  <p>Youth A 2025 SKYRUNNING YOUTH WORLD CHAMPS JAPAN TEAM YUNO YAMADA</p> |



2025 ユース世界選手権 パーティカル ― 大掛莉 2 位、小幡 & 小林 3 位 ―

8 月 1 日（金）、ユース世界選手権の聖地であるイタリア・グランサッソにて、第 9 回目となる 2025 ユーススカイランニング世界選手権が開幕しました。初日は駆け登る速さを競う種目であるパーティカル（3.5km/+1000m）が実施されました。

| YOUTH A MEN | YOUTH B MEN | YOUTH C MEN | U23 MEN |
|---------------------------------------|--------------------------------------|--|--------------------------------------|
| 1. CLARK PATRICK (AUS) 41:48 | 1. SAGÜES ROVIRA BIEL (ESP) 37:30 | 1. PUIGVERT PALACIOS LLUÍS (ESP) 35:50 | 1. NET PUIG IŮ (ESP) 36:56 |
| 2. FERNANDEZ GARCIA EKAIN (ESP) 41:54 | 2. PIUMARTA FILIPPO (ITA) 41:42 | 2. MEUSBURGER MAXIMILIAN (AUT) 38:22 | 2. VENERO JIMENEZ FABIAN (ESP) 38:01 |
| 3. LUNDQVIST ARON (SWE) 42:18 | 3. GADIN DAVIDE (ITA) 42:18 | 3. CAMESI FIORILLO (SUI) 38:44 | 3. EHRLE LUKAS (GER) 38:38 |
| 14. 鈴木レオナルド (JPN) 49:46 | 5. 矢花 海空 (JPN) 42:42 | 12. 新田 華寿樹 (JPN) 44:57 | 10. 長谷 怜信 (JPN) 43:03 |
| | 19. 山岸 大志 (JPN) 47:41 | | 21. 岡 翔琉 (JPN) 45:40 |
| | | | 31. 古田 蓮 (JPN) 47:46 |
| YOUTH A WOMEN | YOUTH B WOMEN | YOUTH C WOMEN | U23 WOMEN |
| 1. GREENBERG BROOKE (USA) 49:11 | 1. SYNSTNES HOLE INGEBOG (NOR) 49:27 | 1. JOSEFSSON AGNES (SWE) 46:43 | 1. POZZI MARTINA (ITA) 45:19 |
| 2. 大掛 莉奈 (JPN) 50:17 | 2. BECK LUNA (FRA) 50:26 | 2. LASALLE GRATACOS GABRIELA (ESP) 47:11 | 2. CORRAL HODAR CLAUDIA (ESP) 45:31 |
| 3. BRUSETH ANNA (NOR) 52:42 | 3. 小幡 莉子 (JPN) 50:43 | 3. 小林 華蓮 (JPN) 52:08 | 3. ALONSO PEDREÑO DALIA (ESP) 49:11 |
| 5. 大掛 柚奈 (JPN) 53:13 | 13. 齋藤 夢海 (JPN) 01:06:36 | | |
| 11. 山田 柚野 (JPN) 01:01:41 | | | |

2025 ユース世界選手権 スカイ ― 大掛莉 2 位、日本は団体 4 位―

8 月 3 日（日）、2025 ユーススカイランニング世界選手権の 2 種目目としてスカイ種目が実施されました。YouthA（15-16 歳）YouthB（17-18 歳）は 9km／±850m の短いコース、YouthC（19-20 歳）U23 部門（21-23 歳）は 23km／±2230m の難易度の高いコースで実施。団体では日本はスペイン・イタリア・ノルウェーに次ぐ 4 位。

| YOUTH A MEN | YOUTH B MEN | YOUTH C MEN | U23 MEN |
|---------------------------------------|---|---|---|
| 1. MENA LLOBERA POL (ESP) 57:15 | 1. SAGÜES ROVIRA BIEL (ESP) 54:04 | 1. PUIGVERT PALACIOS LLUÍS (ESP) 02:32:21 | 1. VENERO JIMENEZ FABIAN (ESP) 02:26:02 |
| 2. FERNANDEZ GARCIA EKAIN (ESP) 58:09 | 2. CRANSAC CHAYRIGUES OSCAR (FRA) 57:49 | 2. MEUSBURGER MAXIMILIAN (AUT) 02:34:57 | 2. NET PUIG IŮ (ESP) 02:26:44 |
| 3. CLARK PATRICK (AUS) 59:03 | 3. SUINI CHRISTIAN (ITA) 58:40 | 3. BENTHAM SAM (GBR) 02:38:31 | 3. SPENCER TOM (GBR) 02:32:25 |
| 5. 鈴木 レオナルド (JPN) 01:02:45 | 6. 矢花 海空 (JPN) 59:36 | 8. 新田 華寿樹 (JPN) 02:49:28 | 11. 岡 翔琉 (JPN) 02:53:10 |
| | 16. 山岸 大志 (JPN) 01:05:30 | | 12. 長谷 怜信 (JPN) 02:53:36 |
| | | | 27. 古田 蓮 (JPN) 03:06:46 |
| YOUTH A WOMEN | YOUTH B WOMEN | YOUTH C WOMEN | U23 WOMEN |
| 1. GREENBERG BROOKE (USA) 01:09:42 | 1. SYNSTNES HOLE INGEBOG (NOR) 01:09:09 | 1. JOSEFSSON AGNES (SWE) 03:05:47 | 1. ALONSO PEDREÑO DALIA (ESP) 02:59:52 |
| 2. 大掛 莉奈 (JPN) 01:10:29 | 2. BECK LUNA (FRA) 01:09:11 | 2. LASALLE GRATACOS GABRIELA (ESP) 03:11:57 | 2. CORRAL HODAR CLAUDIA (ESP) 03:00:41 |
| 3. BRUSETH ANNA (NOR) 01:10:35 | 3. MCINTOSH SIDNEY (USA) 01:10:08 | 3. LLANSÓ BORDES NÚRIA (ESP) 03:22:32 | 3. POZZI MARTINA (ITA) 03:02:38 |
| 4. 大掛 柚奈 (JPN) 01:12:58 | 7. 小幡 莉子 (JPN) 01:14:42 | 7. 小林 華蓮 (JPN) 03:39:29 | |
| 5. 山田 柚野 (JPN) 01:16:01 | 15. 齋藤 夢海 (JPN) 01:33:08 | | |

※大掛莉は複合 2 位

| COUNTRY RANKING | | |
|-----------------|----------------|------------------|
| 1. スペイン 2036pt | 4. 日本 1272pt | 8. ポルトガル 874pt |
| 2. イタリア 1476pt | 5. チェコ 1168pt | 9. ブラジル 756pt |
| 3. ノルウェー 1292pt | 6. イギリス 1056pt | 10. スウェーデン 648pt |
| | 7. アメリカ 1016pt | ※出場 29 개국 |

岡 翔琉(U23)



この度は、ユース世界選手権出場にあたり、皆様から温かいご支援とご声援をいただき、誠にありがとうございました。今大会での結果と、現地で感じたこと、そしてこれからの目標についてご報告させていただきます。まず、今大会の結果をご報告します。個人種目ではパーティカルが 21 位、スカイが 11 位、そして国別のチームランキングでは 4 位という結果でした。

大会初日のパーティカルは得意種目でしたが、序盤から思うように体が動かず、厳しいレース展開となりました。その中でも気持ちを切らすことなく最後まで全力を出し切れた点は、次につながる収穫だったと感じています。また、ウェーブスタートという形式だったからこそ、後方から追いつてくる世界のトップ選手たちの強さを肌で感じることができ、非常に大きな刺激を受けました。

続くスカイでは、パーティカルの実績を活かし、レースプランを練って臨みました。前半はリズムの良い海外選手についていくことで体力を温存し、後半の勝負どころで一気に出力を上げる展開を想定していましたが、このプランが功を奏し、今持てる自分のベストは尽くせたと思います。ただ、課題である下りで全く勝負にならなかった点、そして本来の持ち味である「前半から積極的に攻めていく」レースができなかった点には悔いが残ります。

今大会を通して、スカイランニングという競技が国境を超えて人々をつなぐ素晴らしいスポーツであると改めて実感しました。コース上で国籍を問わず熱い声援を送ってくださった大会スタッフや各国のサポーターの方々、共にグランサッソの壮大な景色の中を走り、言葉は通じなくともゴール後には健闘を讃え合えた海外の選手たち。こうした一つ一つの出会いが、人と人との繋がりや素晴らしさを教えてくれました。

今回、僕にとっては世界選手権への初挑戦であると同時に、初めての海外渡航でもありました。そんな経験の浅い僕を、監督の皆さん、サポートの皆さん、そしてユースチームの仲間たちが支えてくれたおかげで、大きなトラブルもなく充実した遠征とすることができました。その中でも特に印象深いのが、男子選手 6 人の部屋がとにかく狭く劣悪だったことです。部屋には手洗いした生乾きのユニフォームの匂いが充満し、床はビチャビチャ。1 番の不満は僕と大志だけ 1 つのダブルベッドに 2 人で寝ることになったのですが、手足の長い彼は寝相も悪く、夜中に毛布を剥ぎ取られ、脚を腹に乗せられ、何度も目が覚めました。彼と同じベッドじゃなければ、あと一つか二つ順位が上がっていたかもしれません笑。そんなこともありましたが、総じて言うとも楽しかったです。

今後の目標は、今大会で味わった悔しさを糧に、来年再びこの世界の舞台へ戻ってくことです。そのために、まずは今年 11 月に開催される日本選手権でしっかりと結果を残し、来年の夏に向けて万全の準備を進めていきたいと考えています。

最後になりますが、今回の挑戦を支えてくださったすべての皆様に、改めて心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。来年こそは、必ず表彰台に立ち、皆様に成長した姿と結果で恩返しができるよう精進してまいります。今後とも、温かいご声援のほど、よろしくお願い申し上げます。



大掛 柚奈(YA)



私は世界選手権の前に3か所も骨折してしまい、思うように練習が積みませんでした。パーティカルでは5位という結果。ここまで戻せたという嬉しさもありましたが、やっぱり入賞したいという思いが強く、スカイレースでは切り替えようと思ったのですが、登りで離されてしまい、得意の下りでもユースAの選手には追いつくことが出来ず、4位。本当に悔しい結果でした。でも、レース自体は海外の山の美しい景色を見ながら走ることができ、とても楽しく貴重な経験となりました。

グランサツソ、スカイランニングの魅力。初めての試走の日は雨で、景色はほとんど見ることはできませんでした。しかし次の日の試走は快晴。車で途中まで登ったら、大きな山と、どこまでも続くグランサツソの雄大な景色と迫力に圧倒されました。地域や山によって景色が異なり、その違いを見ながら走れるのはスカイランニングの魅力だなと改めて思いました。

今回一番楽しかったことは、スカイのコースを試走しているときに、メンバーが見つけたハンモックに行ったことです。そこを秘密基地にして、大会の前日や大会後などに行き、みんなでリフレッシュしました。ハンモックの上ではみんなで話したり、虫と遊んだりして、とても楽しい時間を過ごすことができました。応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。

大掛 莉奈(YA)



今年はユーススカイランニング世界選手権に出場するのは2回目で、目標は優勝することでした。1日目のパーティカルではウェーブスタートだったので、自分の順位が分からず、難しかったです。ゴール前で、後ろからスタートした選手に抜かされてしまいましたが、その選手に追いつかれた時点で、負けていることは分かっていたので、最後まで粘れなかったのが、反省点です。2日目のスカイレースでは、パーティカルで負けた選手に着いていきたいと思っていましたが、すぐに姿が見えなくなってしまいました。それでも、最後まで諦めずに走りきることができました。

結果はパーティカルもスカイレースも、コンバインドも銀メダルで、目標としていた優勝には届かず、とても悔しかったです。ただ、自分の力はすべて出し切れたと思うので、その点は良かったです。今年も海外選手の強さを改めて感じました。

グランサツソは、とにかく絶景でした。レース中は景色を楽しむ余裕はありませんでしたが、試走で見た山はとても美しかったです。日本より気温が低く、走りやすかったのも印象的でした。大会期間中は、みんなでハンモックに行ったり、楽しい時間を過ごせました。また、昨年よりも海外の選手とたくさん話したり、ユニフォームを交換したりして、交流を深められました。今年もとても良い経験になりました。応援ありがとうございました。

小幡 莉子(YB)



今回が私にとって3度目のユース世界選手権でした。結果は1日目のパーティカルで3位、スカイでは7位でした。今年もメダルを獲得することが目標だったので3年連続でメダルを獲得することができてほんとに嬉しいです。

今年は世界選手権にむけて練習していく中で、昨年まで走っていたペースや距離が走ることができず苦しい日が多く、世界選手権が近づくにつれて不安と焦りでいっぱいでした。そんな時にたくさんの方から「怪我せず楽しんできてね」という応援の言葉をいただいて、楽しんでこようという気持ちに切り替えて大会に臨むことができました。

パーティカルでは今年も15秒ごとのスタートで後ろから速い選手がくるとわかっていたので逃げつつも、落ち着いて自分の1番力が発揮できるペースを考えて走りました。ゴールをして3位だとわかった瞬間は本当に嬉しかったです。再び世界の舞台で表彰台に上ることができて幸せでした。スカイでもメダル獲得を目指して前半から積極的に攻めました。しかしトップ3の背中すら見えず、登りで足を使いすぎて下りでは思うような走りができず悔しかったです。ですがグランサツソの山を存分に楽しみ怪我なく無事に下山することができたので良かったです。また普段なかなか会えない他の県の人々と一緒に過ごせて、何気ない会話を沢山して、レース後にはみんなで夜遅くまでミニパーティーを開いて、一生の思い出になりました。

海外の山と日本の山との一番の違いはやはり景色で、海外はひらけている場所が多く、よくテレビで観る the 海外という壮大な景色でとてもわくわくします。見たことのない植物や虫を発見したり、初めて聞く鳥の鳴き声、コース上に放し飼いをされている牛を見たり、新鮮な環境で楽しく走れました。またなんとといっても熊がほとんど出ないということが羨ましいです。

私の小さい頃の夢の1つはお父さんのようなアスリートになることでした。小学生の頃から陸上をしたりお父さんやお母さんと時々山に登っていたのですが、世界選手権に出場できる選手になれるなんて思っていなかったです。そして何よりも日本中、世界中でたくさんの友達ができ、普通だったらできないような経験もたくさんさせてもらえて幸せです。私を応援してくださる方々、支えてくださる全ての皆さんに本当に感謝してます。これからも夢に向かって頑張っていきます！

齋藤 夢海(YB)



応援・クラウドファンディングへのご支援、ありがとうございました。イタリアに到着してすぐ、寒さや乾燥、そして山の環境の変化を強く感じました。今回のレースは、2日間とも天候に恵まれ、晴天の中で走ることができました。

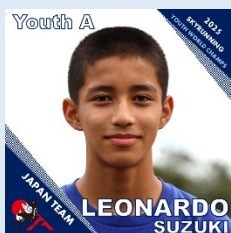
パーティカルでは、日本では体験できないような斜度のある登りを駆け上がりながら、景色や海外選手たちの熱い応援を肌で感じることができました。とても刺激的な経験でした。

スカイレースは比較的スピードの出るコースで、パーティカルと同じ登りをもう一度走るのは精神的にもきつかったですが、下りでは「開けすぎているのでは」と思うほど壮大な景色の中を駆け下ることができました。足場は土から岩、岩から砂利へと変化し、草に隠れて見えにくい箇所もありましたが、前を走る海外選手たちのテンポの良い下りはとても爽快で印象的でした。空気も澄んでいて、非常に気持ちよく走れました。しかし、残り 2.3 キロ地点で足をひどく捻ってしまい、フィニッシュ後には、人生で初めてのイタリア、そして初めての救急車に乗ることとなってしまいました。車内の天井はレインボーカラーで、救急車とは思えないほどカラフル。下り坂の道をものすごいスピードで駆け抜けていきとても日本では感じられない恐怖をあげられました。骨折はしていなかったものの、靭帯を強く伸ばしてしまい、しばらくは安静になりました。それでも、松本監督や丸山トレーナー、そしてチームの皆さんのおかげで、無事に帰国することができました。

海外選手のフレンドリーな人柄、レース前のハグやハイタッチ、地元の方々の温かさ、熱い応援、そしてグランサツソの大地と澄んだ空気を心から楽しむことができたことを、本当に嬉しく思っています。まずは怪我の完治を目指し、しっかりと治療に取り組んでいきます。

改めて、応援・ご支援、本当にありがとうございました。

鈴木 レオナルド(YA)



私は今回、イタリア中部のグランサツソ山で行われた、ユーススカイランニングの世界選手権に出場しました。この大会を通して感じたことは、グランサツソの山々の自然の魅力とスカイランニングという競技が生み出す特別な魅力です。グランサツソは標高が高く、岩場や急な斜面といった過酷なコースでしたが、その一方で広がる景色はとても美しく、日本の山ではめったに味わえない絶景が広がっていました。今回のレース以外の場面でも、世界中の国々から集まったユースの代表選手とユニフォームを交換したり、身振り手振りで会話をしたりしたことで互いの文化を知ることができて言葉が通じなくとも「同じ競技を愛する仲間」として打ち解けることができてとても楽しかったです。

そして今回のレースの感想としては、1日目のVK「駆け上り」では youthA で 14 位とイマイチな結果となってしまい非常に悔しかったです。スタートから前を全力でプッシュし続けて、冷静さを失ってしまい、オーバーペースとなり中間地点から足が止まっていき、後続の選手に抜かされる結果となってしまいました。この結果を踏まえて、3 日目に行われた SKY「駆け上り&下り」では、スタートから落ち着いて入り、自分の強みである中間から後半にかけての急登を走り抜き、4 位を争っていましたが、苦手な平坦の部分で差を広げられてしまいました、しかし下りでは 40 秒ほどあった差を 2 秒ほどまで詰める走りでしたが、傾斜が緩んだタイミングで話されて 5 位に終わりました！上位 4 位までが 1 つ上の学年だったので自分の中ではよく戦えることができてよかったと思います。この大会はスポーツを通して人と自然、そして世界と繋がれることを教えてくれた貴重な体験ができました。



小林 華蓮(YC)



4回目のスカイランニングユース世界選手権。今年も世界の山好き達と一緒に走れるチャンスをいただきました。4回目ともなると顔見知りの選手たちばかりで、ライバルたちの姿を見た時には「また帰って来れた」という安堵感さえ感じました。1年に1回の真剣勝負、楽しみで仕方なかった！！

まずは初戦 VK。やっぱり夏も冬も海外選手はみんな速く見える。2年前と同じコースなので、自分の戦略を細かく立てて挑みました。今回ロクしていたのはずっとライバルのスペイン、スウェーデンの選手。2人の強さは百も承知でしたが、私も「私がメダルを獲らないで誰が取る」というくらいVKに全てを賭けていて、キャプテンとしても一選手としても気合を入れて準備をしてきていたので、強気で挑みました。結果はタイムとしては2年前より3分落ち、ライバルの2人には約5分負けてしまいました。しかし4位だったスペインの選手に1秒勝ち、ギリギリメダルを獲得することができました。最後まで諦めない気持ちと努力が報われた、あの時のホッとした感情は今でも忘れられません。総合での金メダルを狙っていただけに不甲斐ない結果で終わってしまって悔しさはもちろんありますが、これが今の実力。とても満足 of いくレースになりました。裏を返せばこのコースを攻略できればいくらでもタイムは縮められるということです。今後に繋がる、とても貴重な経験になりました。

そして SKY.VK で全て出し切って疲れ果てていたのも、最初から楽しもうという気持ちで走りました。2年前からカテゴリーが上がったことで距離が伸び、よりイタリアの山を満喫することができました。レース内容は最初の登りは4番手、そこから上げたかったのですがダウンヒルでお腹が痛くなってしまい、ペースを落とさずを得なくなっていました。調子はイマイチでしたが景色はどこをとっても素晴らしく、特に核心部の岩場はスリル満点でとても印象に残っています。そしてハイカーさんが多く、みんな応援してくれる。日本語で応援してくださる方もおり、山岳スポーツが根付いていることにとても魅力的に感じました。順位もタイムも良いとは言えない結果でしたが、笑顔で無事にゴール出来たことが何よりも嬉しかったです。

改めて海外で最高のパフォーマンスを発揮するのは至難の業だと痛感しました。そして、たくさんの同世代と一緒に走れる環境が日本にはないので、とても貴重な時間を過ごすことができ、その時間を共にしてくれた日本代表の仲間たち、海外の山好きたちに感謝です。ありがとう。海外ならではの傾斜もそうですが、応援や周りの山々の迫力、山好きたちのハングリー精神には勉強させられるものがありました。また再会できる日を夢見て今回の思い出を綴った参戦記はここまでにし、残りは私の胸の中にしまっておくことにします。

最後に、イタリアの地へエールを送っていただいた皆さん、サポートして下さった皆さん、クラウドファンディングにご協力くださった皆さん、ありがとうございました。VK 総合で1番になる！と意気込んで臨んだ今年のユース世界選手権は不甲斐ない結果に終わりましたが、満足できる内容となり、人としても成長することができました。またいつかリベンジ！引き続き日本代表の応援をよろしくお願いいたします。Andare ! Giappone !

新田 華寿樹(YC)



日本代表として世界の舞台に立ったとき自分が一番強く感じたのは「孤独との戦い」だった。トップ選手であることは、同時に負けが許されず、言い訳も許されない立場であるということ。何をしても「日本代表だからできるよね」という期待が押し寄せてくる。自分が想像していた日本代表とは大きく違った、その裏には孤独が常にまとわりついていた。だが、孤独に勝てたときこそ最高の結果が生まれる。

世界8位という結果は、自分一人の力ではなく、スポンサー、トレーナー、監督、クラウドファンディングに協力してくれた方々の多くの支えがあってこそ得られた結果であり、感謝の気持ちや嬉しい気持ちもあるが悔しい気持ちもある。自分の限界はまだここじゃ無いと。この挑戦の過程では、自分を嘲笑う人もいれば、「世界は甘くない」と突き放す人もいた。否定の言葉を浴びせられるたび、悔しさと苛立ちがこみ上げたが、その感情に時間を使うよりも、練習に打ち込み、「やってやったぞ」と胸を張って言える自分になろうと誓った。スタートを切ってしまうと、もうやり直しはきかないし途中で「やめたい」と思っても、引き返すことはできない。夢を叶えるために、自分はいくつもの時間や楽しみ、人との時間を犠牲にしてきた。ある人が言っていた「夢を叶えるなら、何かを犠牲にしないと叶わない」と。その言葉は、自分の心に深く残っている。

そんな日々の中で、改めて「今の瞬間は二度と戻らない」という事実を強く意識するようになった。信頼や友情は時間をかけて築くものだが、失うのは一瞬。たった一度の言葉や行動で、積み重ねたものが崩れてしまう。それは競技も同じ練習をしなれば強くはなれないし練習をサボれば今までの積み重ねが一気に崩れてしまう、レースに出た時にやっておけばよかったと後悔をしてしまう。過去に戻りたいと思うときは、きっと後悔しているときだろう。だからこそ、過去を悔やまないよう全力で今を生き、自分にとって最も大切なと感じている。

孤独と向き合い、嘲笑を力に変え、今を全力で生き、自分を信じる。これからも自分は挑戦と共に成長していく。

長谷 怜信(U23)



① レースの感想：ユース世界選手権に出場できたこと自体が大きな経験でした。正直、レース前から体の不安もあり、思うように走れるのかという葛藤を抱えたままスタートに立ちました。実際に走り出すと、標高差のあるコースと岩場のテクニカルな地形に何度も心が折れかけました。それでも、一步でも前へ進むことをやめず、最後まで自分の走りを貫けたことに価値があったと思います。結果には満足できない部分もありますが、世界の舞台で自分の現在地を確かめられたこと、そして「自分はまだ強くなれる」と実感できたことが一番の収穫でした。

② グランサツソ・スカイランニングの魅力：グランサツソは、自分がこれまで走ってきたどの山とも違いました。切り立った稜線を駆け抜けるとき、足の疲労を忘れるくらいに景色が迫ってきます。振り返ると遥か遠くまで山並みが続き、雲の切れ間から差し込む光が一瞬で景色を変えていく。まさに「自然と一体になって走る」感覚でした。スカイランニングの魅力は、この自然の厳しさと美しさが隣り合わせにあるところだと思います。息が切れて苦しいときほど、目の前に広がる光景に励まされる。その瞬間、「この競技を始めてよかった」と心から思えました。

③ 楽しかった・面白かったエピソード：一番印象に残っているのは、レース後、各国の選手たちと健闘を称え合った時間も忘れられません。言葉はうまく通じなくても、握手や笑顔だけでお互いの気持ちが伝わる。国や言葉を超えてつながれるのがスポーツの魅力だと、改めて実感しました。

古田 蓮(U23)



<レースについて>

今まで海外への渡航経験がなかった私は、長時間のフライトによるストレスや、食事の変化、気候の違い、日の長さなど日本で20数年経験したことのない環境にレース当日までなかなか体が適応できていなかったと思います。その一方で、気持ちの面では海外の山に挑戦できることや、世界の舞台での良い結果をイメージして充実していました。

いよいよ迎えた1日目 VK になっても体の面では食事が合わなかったのか常にお腹が張っているような状態でした。しかしながら、スタートは U23 ということもあり遅めの10時過ぎ。朝は予定通りお米を食べ、シャワーを浴びて体を温めました。時間と共にお腹の張りも改善し、万全の状態を整えてスタートしました。VK のレースに参加する経験は世界選手権が4レース目と経験不足ではありますが、それでも学んだことは少々。特に自分は序盤飛ばしてつづれがちなので序盤はある程度スピードには乗りますが苦しくない程度、後半からイーブンペースかさらにプッシュしてペースを上げる作戦。スタートして D+100m ほどで後ろからスタート(ウェーブスタート)した長谷選手に抜かれ、彼の身軽な動きに目を奪われる。中盤のほんの 500m 程度の平坦な区間を除けばひたすら急登で、呼吸は常にしんどかったです。ラスト 300m は足が上がらないほど乳酸が溜まっていたが、体の限界を超えて半ば無理やり動かすような感じで脚を引き上げて登りました。トレーナーの丸山さんから「蓮の喘ぎ声の下からずーっと聞こえてきた」と言われました。ゴール手前ではほとんど意識もなく酸欠状態。動画を見返すと軽く痙攣していました。結果は出なくとも全力で走り切る姿を、応援してくれる人に見せたいと常々思っており、達成できたのかなと思います。

2日目スカイでは VK と同じくお腹の張りが少し気になりましたがパフォーマンスに影響が出るほどではなかったです。一方で、レース間が1日空いたのが裏目に出たのか VK の 疲労で脚がスタート直後から重く、先頭が見える位置でスタートできたのにもかかわらずどんどん抜かれ、下位スタート。得意とするスカイでは上位を狙えると思っていたので予想以上に動かない脚に苦しみました。しかし、まだ序盤なので焦らずいつも通りテクニカルなサーフェスと下りで後半追いあげる展開をイメージして心を落ち着かせました。VKゴールのエイドステーションでは、預けていた水と補給食の内、補給食だけを丸山コーチから受け取り、熱い激励と共に走り出しました。スカイの山場、チェフェローネ山までは順位を落とさず、得意のテクニカルな岩場の下りで仕掛け、5人ほどを一気に抜きました。途中、レーススタッフから「Giappone Ninja」との声が一瞬間こえました。ゴールまで最後のつづら折りの下りでは踏ん張りがきかない中1つでも上の順位、1秒でも早いゴールを目指してキロ4分台のペースで下り、ラスト1km ゴールの歓声が聞こえたときに自然と涙がこぼれてきました。1月から4月まで怪我に悩みもどかしい期間が続きました。日本代表に選ばれたプレッシャーや就職活動との重なりもありました。しかし同時にここまでこれたのは2年間目標に向かって走り続け、自分自身でつかみ取った結果であることにも気が付きました。そしてこの舞台で完走し、日の丸をゴールに届けることができることに感動したのだと思います。それでも、ゴールは笑顔ですと決めていたので最後は飛び切りの笑顔でゴールしたことを覚えています。

<グランサツソ・スカイランニングの魅力>

標高 1,000m 付近の宿場からすぐ裏に構えるまさに大きな岩「グランサツソ」は細かく見れば日本アルプスなどで見られる景色もあるだろうが、それでもアルプス級と比肩されることは間違いなかった。低標高から低層木が広がり急峻な岩が露出し、山頂まで見渡すことができる景色は圧巻であった。さらに稜線まで出れば 3,000m 近くにもなる岩壁が雲を突き 抜け空に広がっている。北側を見下ろせば大量の雪解け水が削りだしたであろう広く

モコモコとした谷地形が地平線まで広がっていた。山の裾野が日本とは比べ物にならないほど大きく、その広大さに衝撃を受けた。海外の山をもっとめぐりたいと心の底から思った。スカイランニングという競技を通じて、言語も出身も違う選手達が山頂に向かって駆け 登って行く姿はスポーツという概念で結びあった仲間のように感じとれた。そして日本の空と等しく青いイタリアの空が心に刻まれました。

<面白エピソード>

最年少のレオナルド選手が夜になるとマッサージの棒でゴリゴリと体をほぐす音が耳に刻まれました。最初は痛くないのかと心配していましたが彼も嬉々として我々にマッサージを進めてくるので面白かったです。次第に滞在後半は、この音が聞こえると「間もなく 寝る時間か」というなぜか心地よいサウンドになっていました。

矢花 海空(YA)



今回は僕にとって 2 度目の世界選手権なので、心に余裕がある状態でレースに臨むことができました。

1 種目目の Vertical は、僕が一番自信のある種目なので、メダル獲得を目標にしていました。いざ走ってみると、日本に無いようなとても急峻なコースで、僕にとっては相性が抜群でとても楽しかったです。全力を出し切れたけど、結果はメダル獲得まで約 20 秒で 5 位となり、非常に悔しかったです。

2 種目目の Sky では、Vertical でメダルに届かなくて、とても悔しい思いをした分、最初から先頭集団でレースを展開しました。登りでは 3 位でメダル圏内にいましたが、苦手下りに入ったところで 3 人に抜かされて 6 位となってしまいました。僕がメダルを獲れていたなら、チームランキングが 3 位に入っていたので余計に悔しかったです。

グランサッソの魅力は、とにかく食べ物が美味しかったことです。昼食と夕食には必ずパスタが出てきました。日本には無いような色々な形のパスタがありました。僕にとっては、食べ物や水も合っていてコンディションが良かったです。

スカイランニングの魅力は、空に向かって一気に駆け上がるスピード感や、風を切って一気に駆け下る爽快感は最高に楽しいです。

この遠征期間中に誕生日があったのですが、その日の夜に日本チームとブラジルチームのみんながサプライズでお祝いしてくれました。凄くビックリして嬉しくて一生忘れられない 17 歳の誕生日になりました。また、空き時間にみんなで動画を撮影したり、ダンスを踊ったり、笑顔が絶えない明るいチームでした。松本監督と丸山トレーナーには、いつもの確なアドバイスを貰って最大限の力を出すことができました、ありがとうございました。

そして、日本から応援や支援をして下さった皆様、本当にありがとうございました。

もっと強くなって、また世界選手権の舞台に立てるように頑張ります。



山岸 大志(YB)



今回の世界選手権は自分自身の世界での在り方を知る貴重な機会となった。

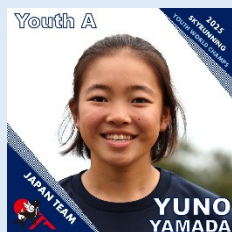
今年のコースは VK、SKY とともに距離が短く高低差が大きく浮石が多いテクニカルなコースで行われ、補給を取る余裕もないくらいのスピードレースでした。その中でも SKY レースでは序盤から全力を強いられる展開。レース中盤では腹痛により得意なダウンヒルでペースを落とさざる得ない時間がありましたが、ラスト2キロでは後ろから迫りくるアメリカとオーストリアの選手から逃げ切ることができました。

ゴールは VK では 19 位 SKY では、16 位順位こそ目標に届きませんでしたが、耐える時間が長かった分、今持っている力を出し切る事ができたと感じるレースとなりました。レースを通じて、海外選手の登坂力やダウンヒルのスピード、ペース配分の巧みさを実感しました。自分には急登を登る筋力が足りないと再度痛感しました。

世界選手権後、私はフランス、シャモニーに 4 日間ほど滞在しアルプスの山岳コースを走り込み、岩場や急登のダウンヒルなど国内では得られない環境で技術を磨くことができました。現地選手との交流や練習もあり、お互いの国のレースやトレーニング文化を知ることができたことは、大きな刺激となりました。

今回の遠征は、順位や記録以上に、自分の課題と世界との差を明確にしてくれた時間になりました。この経験を糧に、国内での強化を重ね、次の国際舞台ではさらに高い順位を目指していきたい。

山田 柚野(YA)



海外のレース自体が初めてですとウキウキした気分で挑むことが出来ました。海外の山は急勾配の区間が多く上手く走ることが出来ないコースでした。バーティカルでは距離が短い中で標高差が 1000mもある日本ではあまりないレースでした。初戦だったところもありましたが、上手く自分のペースまで持っていくことができずゴールしてしまいました。ポールを使用していましたが、ノルウェーなどのスキーの選手のポールの使い方が上手く勉強にもなりました。SKY の日はバーティカルからの疲れもしっかりと抜けていて、周りの雰囲気にもとらわれずに楽しんで走れました。コースはバーティカルと同じところを上り途中で稜線を走り下るコース。木島平で行われる高社トレイルと同じ感じだよ。と丸山将真さんが言ってくれたおかげで自分が最初からどのくらいのペースで走れば良いのか分かり、最後までペースを落とさずに走ることが出来ました。

グラン・サッソは標高が高く体を慣らすことも難しかったですが、天気の良い時走っていると、いつも素晴らしい景色が広がっていてとても気持ちよかったです。スカイランニングの魅力は天気や季節によって違うコースを楽しむことと走っている時に見る景色を見ながら走ることです。

楽しかったことは、みんなで人狼をしたことと、ラクイラ市内を観光したことが楽しかったです。今回の遠征は分からないことだらけでしたが、チームの雰囲気がとても良くてすごく楽しく 10 日を過ごすことが出来ました。

目標のメダルには届かず悔しい気持ちでいっぱいですが、また来年もあの舞台に挑戦できるように、これからも頑張っていきます。応援してくださった皆さま本当にありがとうございました。

ユース日本代表の愛称は『AOZORA JAPAN』

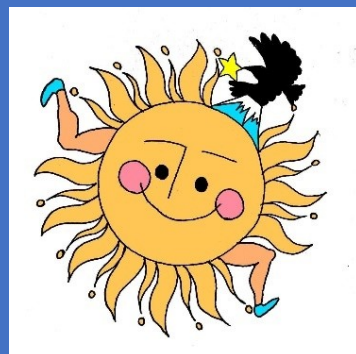
AOZORA JAPAN

2024 年よりユース日本代表の愛称は『AOZORA JAPAN』となりました。

この愛称はユースナショナルチームメンバーにより考案されました。

毎年開催されるユース世界選手権。若き日本代表を支える環境づくりを進めてまいります。

引き続きご支援の程をよろしくお願いいたします。



Special Thanks to JSA Supporters

応援サポーターの皆様、チャリティー協力大会の皆様、温かいご支援・ご協力をありがとうございました！

【応援クラウドファンディング】



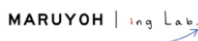
【応援チャリティーパス】



Special Thanks to JSA partners & Supporters

MERRELL

NORQAIN
SWISS MADE WATCHES



選手・協会を支えてくださった全ての関係者・サポーターの皆様に JSA を代表して御礼申し上げます。ご支援はユース日本代表の強化・遠征費として有意義に使わせていただきました。湯ノ丸高原で実施したユース強化合宿には、世界級の現役選手(上田瑠偉選手・小田切将真選手)を招き、充実した練習ができました。世界の山々や人々と触れる機会は、各々の人生や社会を彩り、世界平和にもつながります。スカイランニングらしく前向き・上向きに！協会としても挑戦し続けていきます。今後とも、皆様からのご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。(日本スカイランニング協会 代表理事 松本 大)

JSA ナショナルチーム 今後のスケジュール

※スケジュールは 2026 年 1 月時点の予定であり変更となる場合があります。

2026-2027 世界公式戦

- 【04 月】山岳：2026 ユーススカイランニング世界選手権（イタリア）※23 歳以下
- 【07 月】山岳：2026 マスターズスカイランニング世界選手権（ブルガリア）※40 歳以上
- 【09 月】山岳：2026 スカイランニング世界選手権（スペイン）
- 【未 定】雪上：2026-2027 スカイスノー世界選手権／アジアパシフィック選手権



次は、私だ。

2026 Youth Skyrunning World Championships

May 8-10, 2026 – Makarska, Croatia



AOZORA JAPAN

「世界最高峰」に挑むスカイランニング日本代表への
応援・支援を、引き続きよろしくお願いいたします。

スカイランニング日本代表の最新情報は JSA ホームページをご覧ください

<https://skyrunning.jp/>

